

日本・モンゴル民族博物館を活用した 但東地域の地域づくりに関する意識調査報告【概要版】

豊岡市では、但東の地域づくりに日本・モンゴル民族博物館を活用する可能性を検討するため、但東地域の皆様にご意見をお聞きしました。実施した調査の結果がまとまりましたので、概要を報告いたします。



【調査の概要】

●但東地域全世帯アンケート調査 2024年11月～12月実施

全戸 1,589 世帯対象 有効回答数 822 回答率 51.7%

●博物館の利活用に関するワークショップ 全4回 2025年1月～7月

各回メンバー 17人(2024年度)、18人(2025年度)

《アドバイザー》 渋谷 節子教授(福知山公立大学)

《WSメンバー》 地域コミュニティ、子ども会、小中学校、PTA、モンゴル交流、
観光協会、商工会の各団体関係者及び移住者

【調査から見出されたこと】

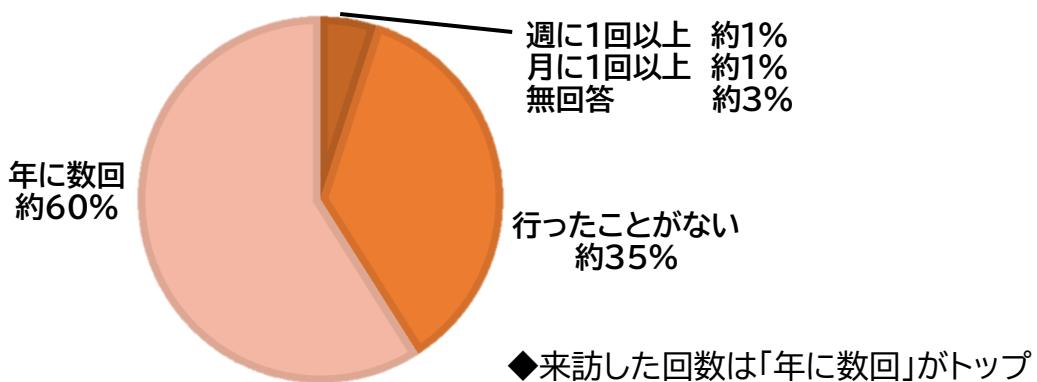
但東の地域づくりにおける 日本・モンゴル民族博物館の役割 3本柱

- 1 日本唯一の「モンゴル」を冠した博物館としての役割
- 2 地域住民の交流の場としての役割
- 3 但東地域の暮らし・文化や観光情報発信の役割

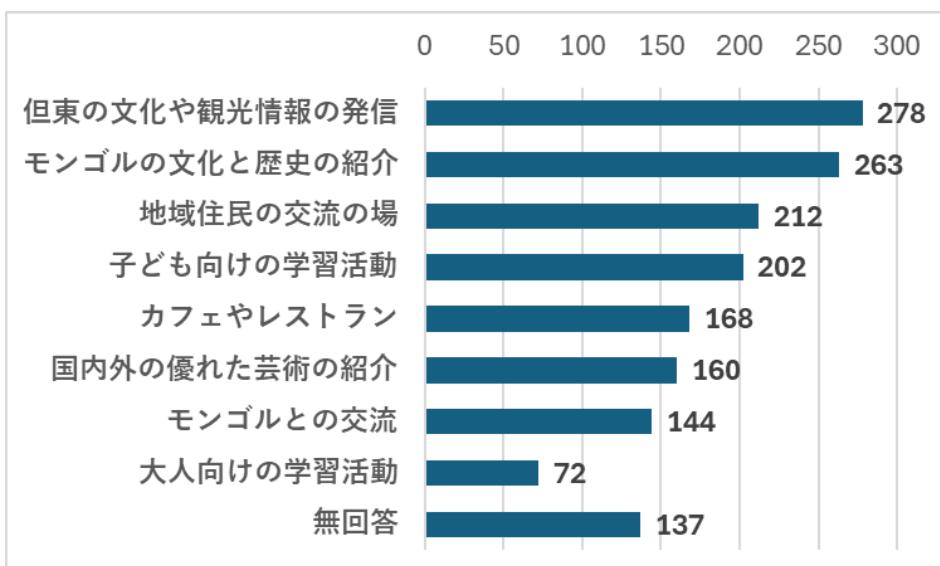


1 アンケートの結果

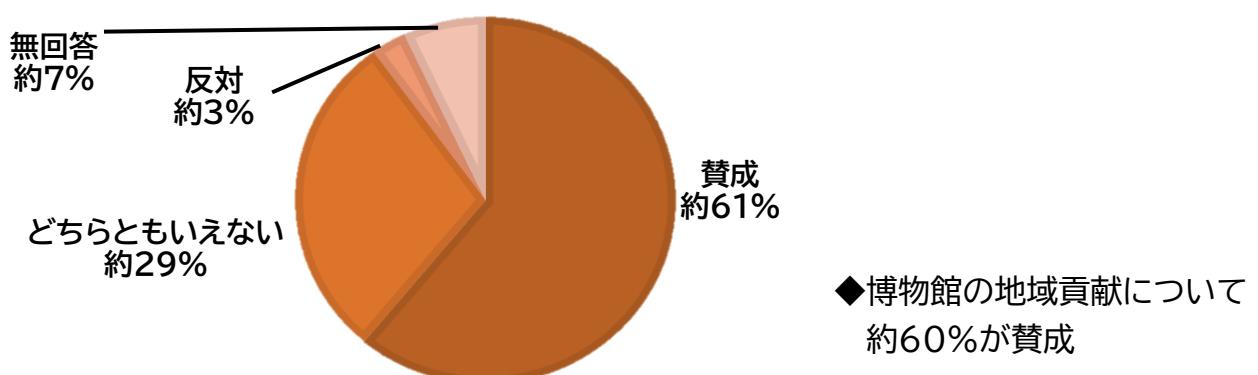
【問】これまでに、日本・モンゴル民族博物館を訪れたことがありますか？



【問】日本・モンゴル民族博物館にどのような役割を期待しますか？（複数回答可）



【問】日本・モンゴル民族博物館が地域やほかの団体と連携して、地域に貢献することについてどう思いますか？



2 ワークショップの内容と結果

《第1回》2025年1月24日(金)

アンケート結果報告、博物館の現状確認、専門家の講演、意見交換を実施しました。

《第2回》2025年3月17日(月)

職員のガイドつきで博物館を見学後、利活用するアイデアを出し合いました。

全てのアイデアを並べて、「重要」・「すぐできそう」なものを絞り込みました。

◆日本唯一の「モンゴル」を冠した

博物館としての役割

- ・モンゴル風サバイバル体験
- ・館内のゲルに泊まる
- ・現代のモンゴル人の生活紹介
- ・日本とモンゴルとの関わりをもっと学びたい
- ・ゲル組み立て体験(日本素材で作る)
- ・遊牧民の体験VR(館内説明つき)
- ・ガイドの定期開催

◆地域住民の交流の場としての役割

- ・ロビーに喫茶コーナーをつくる
- ・小学生も自転車で立ち寄れる場所
- ・豊岡市内の他の博物館・資料館と連携をとる
- ・学生の勉強スペースとして活用
- ・飲食可であることの周知が必要
(ドリンクコーナーをつくる)
- ・Wi-Fiの整備
(ネットで様々なことができる)

◆但東地域の暮らし・文化や観光情報

発信の役割

- ・囲炉裏を利用し、但東の昔の暮らし体験
(スマホで調べるのではなく、自分たちで道具
をどう使うのか考える)
- ・地域の人が先生をするワークショップ

《第3回》2025年5月9日(金)、《第4回》2025年7月4日(金)
2回にわたり、「重要」・「すぐできそう」なアイデアの中から、実施にむけて
「ヒト」「モノ」「カネ」などを具体的に検討しました。

ナイトミュージアム(ゲルキャンプ) ※実行委員会を立ち上げて詳細検討

- ・博物館設立30周年記念のイベントとして開催
- ・ナイトミュージアム×謎解きなど、若い方・子どもなどをターゲットに
- ・星空観察の実施
- ・屋台販売などの飲食も出しながら行う

カフェスペース/勉強スペース

- ・勉強スペースについては小・中学生対象
- ・応接室や囲炉裏端を利用
- ・カフェスペースについては、玄関ホールに喫茶コーナー(機械を置く)
- ・管理等を行う地域の方を募集し、地域主体での運営を検討

但東の昔の暮らし体験

- ・地域で行われているイベントに体験ブースとして出展
- ・火おこしや、但東の昔の暮らしについて、インターネットなどを用いず、自分たちの力で飲食などを用意できるような体験を準備
- ・既にある道具や自然などをフル活用した体験ブースを準備する

3 「多様性のある地域社会に向けて」講演会

本意識調査業務アドバイザーの渋谷節子教授（福知山公立大学）より、多様性のある地域社会に向けての講演をいただきました。但東町の地域づくりにおける日本・モンゴル民族博物館の活用についても、異文化や多様性への理解を深めるための「ハブ」となる可能性を見出すことができました。

- 日時 2025年9月6日(土) 13時30分～15時
- 講師 福知山公立大学 渋谷 節子教授
- 会場 豊岡市役所但東庁舎2F 大会議室
- 参加者数 32名

